

二層協議体クローバー会議 議事録

■開催概要

- ・ 日 時： 令和 7 年 7 月 15 日
- ・ 場 所： 富士見が丘コモンズ
- ・ 出席者： ほほえみの会、NPO 法人だあれ、地域包括支援センター、高齢介護課、社協事務局、地域住民など

1. 開会挨拶（司会：生活支援コーディネーター）

- ・ ほほえみの会や NPO 法人だあれの参加もあり、多世代・多団体の交流の場となった。
- ・ 生活支援コーディネーターに杉山が 7 月より新たに着任したことを報告。
- ・ 「持続可能な地域づくりと多世代交流」を目指し、地域で支え合う仕組みづくりを考える会とする旨を説明。

2. 施設提供者あいさつ（小嶋氏／富士見が丘コモンズ）

- ・ 地域に開かれた場として、今後も活動に協力していきたいとの表明。
- ・ 入居状況の変化や地域のニーズに応じ、情報交換や相談の場として活用していきたいと語った。

3. 参加者自己紹介

- ・ 元町北・富士見が丘・下町など各地域の住民、老人クラブ関係者、PTA、助産師、サロン経営者など、幅広い立場からの参加があった。
- ・ 地域活動への思いや、支援への関わりについての紹介が行われた。

4. ほほえみの会の活動報告

- ・ 活動のきっかけは、クローバーとの関わり。
- ・ ゴミ出し支援、移動支援、居場所づくりを軸に活動。
- ・ 具体的な支援内容：
高齢者や認知症の方への声掛け、ゴミ出し代行、移動手段の支援など。
- ・ 町社協・包括支援との連携により、ドライバー養成講座も実施。
- ・ 支援活動は無理なく、継続的に行えるような工夫がなされている。

■まとめ ・今後も多様な地域団体が連携し、情報を共有しながら地域課題の解決に取り組む。

- ・ 生活支援・移動支援・居場所づくりの 3 本柱を軸に、住民主体の活動を継続・拡大していくことが確認された。

- ・社協・行政と住民との協働が重要であることを再確認。

5. NPO 法人だあれ 活動紹介

◆ 団体概要（代表より）

- ・ 昨年5月に任意団体として発足、現在はNPO 法人化。
- ・ 地域住民の「みんなでご飯を食べたい」という一声をきっかけに設立。
- ・ 「やりたいことをやる場所」をコンセプトに、日替わりで様々な活動を展開。

◆ 主な活動

- ・ 二宮こどもまんなかップの作成：
子育て世代が安心して使える施設（給水所、授乳スペース、休憩場所など）をまとめたマップを作成。高齢者にも使いやすい内容。
- ・ 今後の構想：
地産地消マップなど、多世代のつながりを見据えた地域資源の見える化を検討。
- ・ だあれ寺小屋（放課後学習支援）：
毎週木曜日、小学生を対象に宿題サポートなどを実施。
- ・ だあれ市（地域開放型スペース）：
手作り雑貨、本の交換箱などを設置し、地域住民が自由に立ち寄れる場を運営。
- ・ 地域の日：
地元住民が自分の特技・活動を紹介し、参加者と交流する催し（夏場は中止、9月以降再開予定）。

6. 地域活動者による発表・報告

◆ PTA・学校協議会関係者

- ・ PTA 活動を通じて地域や学校との関わりが深まり、子どもたちとの直接的な交流活動へと発展。

◆ サロン経営者（女性支援）

- ・ 自身の育児経験をきっかけに、母親世代が自分をいたわる時間の大切さを痛感。
- ・ サロンを地域に開き、癒しの場を提供。

◆ 元保健センター職員・助産師

- ・ 妊娠期から子育て期の母親を支える「赤ちゃんち」を設立。
- ・ 月1回、多世代の交流と支援を目的に地域で活動を展開中。

7. 意見交換・今後に向けて

- ・ 多様な立場の参加者が一堂に会することで、新たな連携・発想が生まれる可能性を再確認。
- ・ 「やりたい気持ち」を大切に、地域での活動を広げていくことが共通の目標。

- 参加しやすい仕組みや広報の工夫、出席者名簿の共有、他地区の取り組みの情報交換などが求められている。
 - 生活支援・移動支援・居場所づくりの３本柱を継続的に育てていく方向性が確認された。
-

8. まとめ・展望

- 今後も住民・団体・行政が協働し、情報共有を深めながら地域課題の解決を図る。
- 一層・二層・三層の連携を強化し、地域全体で持続可能な支援体制の構築を目指す。
- 次回以降は他地区の取り組みも取り入れ、より広域的な視点での協議を進めていく予定。